

宮柁二記念館だより

2014.2.28

第40号

発行 宮柁二記念館

TEL・FAX

025-794-3800



ジュニア短歌教室

若い感性で短歌に取り組む

「宮柁二記念館全国短歌大会の応募歌を一首でも多く…」そんな思いで「ジュニア短歌教室」を開設し、今年で三年目となりました。

暑い夏休みの午後、今年も親御さんと一緒に参加いただいた方もあり、限られた時間の中ではありましたが、真剣に取り組む皆さんの姿に感動させられました。そんな教室のしじまの中、思いは昔の夏の一日に馳せていきました。昭和二〇年から三〇年代、お寺や神社は子どもたちのたまり場でした。農家は子どもたちのために、盗られてもいいスイカやトマトを確保してくれていたことが思い出されます。

そして、今：「自分たちで考え作り上げる遊び」、汗を流し「全身を働かせる運動」が敬遠されてから久しくなりました。「鉄は熱いうちに打て」とのことわざにもあるように、感性が柔軟で、豊かな若いうちからの訓練は何者にも勝るといわれています。当記念館としてできる活動は限られたものになってしまいますが、精一杯がんばらせていただきたいと思います。今後ともご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成二十五年度「コスモスの歌人たち」展

短歌大会選者を中心に

平成二十五年は歌誌「コスモス」が創刊されて六〇周年にあたる年でした。宮柵二記念館ではその記念として、コスモスをテーマとした企画展示を行っています。宮柵二を語るうえで、欠くことのできないテーマ「コスモス」。展示では、コスモスの歌人たち、コスモス創刊の頃の資料などをとおして、その六〇年の歩みを紹介しています。

大会選者の書などを展示

宮柵二を中心として創刊された「コスモス」は、これまでの六〇年の間に、多くの歌人を輩出しています。限られた展示室で、皆さんを紹介することは不可能でした。そこで、今回の企画展では、昨年度までに宮柵二記念館短歌大会に選者としておいでいただいた方々にしぼって紹介いたしました。

昨年度までの十八回の短歌大会には、コスモス短歌会から、二十一名の歌人の方に選者をしていただいで

おります。今回、一度に全員を紹介できなかったため、期間の途中で展示替えを行いました。展示では、選者の皆様からいただいた色紙や歌集、短歌大会の時の写真、コスモスに掲載された作品などを紹介しています。

コスモス創刊の頃

壁面ケースの正面では、コスモス創刊当時の資料を紹介しました。宮柵二はコスモス創刊当時の資料を大切に保管していました。このこ



とからも、柵二にとって、コスモスはとても大切な存在であったことがわかります。

コスモス短歌会結成の案内状、日比谷松本楼で開かれた結成記念の歌会の詠草、先輩歌人や文学者などからいただいた創刊号への励ましのお便りなど、どれもがコスモスの宝物といえるでしょう。六〇年を経た今、柵二をはじめとする創刊当時の若い歌人たちのエネルギーを感じ取るこ

今回ご紹介した短歌大会選者の皆様

短歌大会は、コスモス短歌会の協力をいただきながら、平成7年度から、毎年開催しています。昨年度の第18回までに、21名の皆様から選者を選りいただきました。(敬称略)

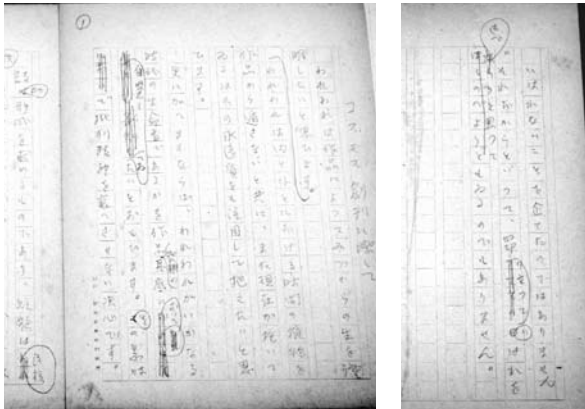
- | | | |
|-----------|------------|------------|
| 第1回 中山 礼治 | 第6回 桑原 正紀 | 第16回 日野原典子 |
| 第1回 高野 公彦 | 第7回 宮 英子 | 第17回 水島 晴子 |
| 第2回 安立スハル | 第8回 高野 公彦 | 第18回 武田 弘之 |
| 第2回 柏崎 驍二 | 第9回 影山 一男 | |
| 第3回 今村 寛 | 第10回 木畑 紀子 | |
| 第3回 山本 清 | 第11回 狩野 一男 | |
| 第4回 武田 弘之 | 第12回 森重香代子 | |
| 第4回 奥村 晃作 | 第13回 小島ゆかり | |
| 第5回 田谷 鋭 | 第14回 岡崎 康行 | |
| 第5回 杜沢光一郎 | 第15回 日影 康子 | |



「みづからの生の証明を」草稿

コスモス創刊号の巻頭に記された、「みづからの生の証明を」という一文は、名文として現在も語り継がれています。当館の創刊時の資料のなかに、この文章を生み出す際の柗二の草稿と思われる原稿用紙が残されていました。

この資料は、原稿用紙に鉛筆書きされており、数行で筆が止まっているものから、最終稿前と思われるほどの仕上がりのもので、4種類があります。本来であれば、このような創作過程の原稿用紙は捨ててしまうものですが、残っていたのは奇跡的ともいえます。内容についての詳しい検証はまだなされていませんが、当時の柗二の考え方が読み取れる貴重な資料ではないかと考えています。



一番上にあった原稿用紙には、「いはれのないことを企てたのではありません。それだからといって昂り立っていはれをはべり、と思ってもあるのではありません」と三行だけ書かれて終わっています。これが、巻頭言を書くため机に向かった柗二の脳裏に、最初に浮かんだ言葉だったのでしょう。

昭和二十七年、北原白秋創刊の「多磨」が終刊します。柗二はその若いグループのなかで、中心的な存在であり、新しい指導者として期待されますが、柗二自身には先輩たちより先に短歌の結社をつくる意志はありませんでした。しかし、結果として「コスモス」は、多磨亡きあと最初に創刊されることになります。そんな経緯のなかで、柗二自身、不安でたまらなかったのかもしれませんが、「言い訳じみている」といえるかもしれませんが、この最初の三行の文から「生の証明」の名文へと昇華されていく思考過程を思えば、当時の柗二の覚悟の強さが、ひしひしと伝わるのではないのでしょうか。

コスモス創刊を決意してから、巻頭言を書き上げるまでに、それほど時間はなかったはずですが、その間に、未来までコスモスを導いていく言葉をまとめあげた柗二。緊張と期待の中で進められたであろう創刊の準備を思うと、深い感動を覚えずにはられません。

「円砂」と「群鶏の会」

北原白秋亡き戦後「多磨」は、物資の不足などのため遅刊が多くなります。一方、新しい時代が到来し、歌壇においても若者たちの学ぶ欲求は高まり、北原白秋という偉大な指導者を欠いた多磨では、その欲求を満たすことが難しくなっていました。そういった中で、多磨の若手の中心的存在であった宮柗二に歌を学びたい、と思う若者たちが行動を起こしはじめます。全国各地の多磨支部の中に、独自に柗二を指導者とした勉強会をつくる若手グループができはじめます。神奈川の「円砂」、新潟の「群鶏の会」などは、その代表的な

ものといえます。

これらの若者たちの熱意と行動が、柗二をつき動かし、「コスモス」創刊への決意にもつながっていったのです。



オープニングセレモニーより

六〇年を経て

「コスモスの現在」

五月二十五日、「コスモスの歌人たち」展のオープニングセレモニーが開催されました。当日は宮英子先生をはじめ、ご親族をお迎えしてオープニングセレモニーとテープカットが行われました。また、記念講演として、コスモス短歌会の影山一男先生から「コスモスの現在」と題してご講演をいただきました。



テープカットの様子。宮英子先生をはじめ6名の方からカットしていただきました。

影山先生は、若い頃から宮柊二に短歌を学んでおり、現在はコスモスの選者を務められています。講演では、平成二十五年



講師の影山一男先生。短い時間のなかで現在のコスモス作品を解説していただきました。

三月号(六〇周年第一記念号?)のコスモスから抽出した短歌を紹介され、現在のコスモスがどのような作品を展開しているか、解説してくださいました。コスモスを代表する方の作品から、今後が期待される若い世代の作品まで、コスモスの歩みを間近で見続けてきた影山先生ならではの貴重なお話をうかがうことができました。

「コスモスの歌人たち」展は、平成二十六年五月十一日まで、開催する予定です。まだ、ご覧になっていない方はこの機会にぜひおいでください。

展示資料から

「会ふといふ愛しきものを」

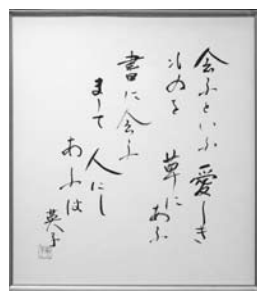
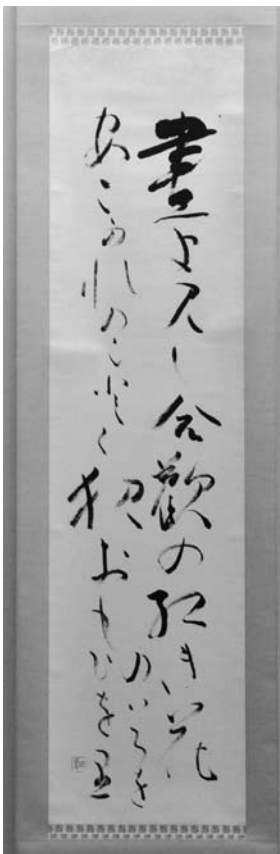
昼間見し合歡の紅き花のいろをあこがれのごとく夜おもひをり

柊二はこの歌の書をいくつか残しています。今回の展示では「昼間に会った人のことを合歡の花に見立て、夜になってその出会いのことを思い出している」という解釈をして紹介しています。

コスモスは最大3000人を超える大きな結社に成長します。そのような状況でも、柊二は会員一人ひとりを、ともに歌を学ぶ仲間としてとても大切にしています。宮柊二記念館においでいただいた方の中にも、そのようなエピソードをお話してくださいる方が少なくありません。

ん。このような柊二の姿勢が、多くの会員が集まってきた理由の一つと思われるのです。

これは、柊二亡きあとコスモスを支えてきたお一人の宮英子先生の作品で、やはり柊二と同じ「会う」ことをテーマに詠まれています。このようなことから、コスモスが出会いを大切にしていることが、うかがえると思っっています。



(左)宮柊二書軸「昼間みし」
(上)宮英子書額「会ふといふ」

平成25年度 事業報告

今年度、宮柊二記念館では、「コスモス」創刊60周年を記念した企画展、第19回となる短歌大会などを中心に、各種の事業を実施しました。

25年度実施事業について

- ◎5月25日
特別企画展「コスモスの歌人たち」展
～短歌大会選者を中心に～
オープンセレモニー（テープカット）
記念講演「コスモスの現在」 講師 影山一男氏
 - ◎6月29日～9月1日
第18回全国短歌大会 ジュニア部門特別賞展
 - ◎7月21日
講演会「晩夏を読む」 講師 岡崎康行氏
 - ◎8月23日
ジュニア短歌教室 講師 短歌教室司会者
 - ◎11月17日
第19回宮柊二記念館全国短歌大会
選者講評 佐藤通雅氏 福士りか氏
 - ◎11月17日～12月20日
第19回短歌大会選者・ジュニア部門特別賞受賞者展
 - ◎1月19日
短歌セミナー「コスモス創刊60周年に思う」
講師 田宮朋子氏
 - ◎2月8日～2月28日
「うおぬま旅 思い出短歌」応募作品展
- このほか、各実行委員会により以下の2事業が行われました。
- ◎9月27日～10月6日
没後35年記念 山岡荘八展
 - ◎10月10日～11月4日
第18回名筆展「徐々坊と美濃派の人々」展

「講演会」と「短歌セミナー」



7月21日、岡崎康行先生からご講演をいただき、34名の方から参加していただきました。1月19日には、田宮朋子先生をお招きして短歌セミナーを開催し、30名の方からおいでいただきました。

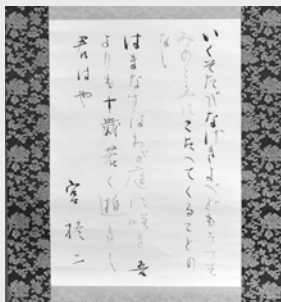
「うおぬま旅 思い出短歌」応募作品展

市観光協会、市雇用創出推進協議会が主催する「うおぬま旅 思い出短歌」の応募作品を、当記念館でも展示いたしました。今年度の応募作品数は43点。どの作品にも「うおぬま」の旅情があふれていました。



新資料紹介

平成25年度も貴重な資料を寄贈いただきました。深く感謝申し上げます。今後も大切に保存させていただきます。



宮柊二 書軸

宮柊二の書軸を二幅を旭川市の佐藤様より寄贈いただきました。一幅は歌集「雪の起伏」の題せん。もう一幅には歌が二首書かれています。



宮柊二 書簡

長岡中学の同級生で見附高校初代校長の黒田省吾宛の書簡を長岡市の岩淵様より寄贈いただきました。見附高校の校歌作成のことが書かれています。



宮柊二 ジャケット

コスモス歌人の島田暉さんが、授かったジャケットです。島田さんからは他に、ベージュ色にウサギ柄の夜着（上・下）も寄贈していただきました。

※この他にも、宮柊二の歌集、コスモス宮柊二研究号、柊二の歌が掲載された井の頭公園ふるさとまつりポスターなど、さまざまな資料を寄贈していただいております。

第十九回宮柁二記念館短歌大会

一〇,〇七七首の応募

【一般の部】

- 選者賞(佐藤通雅選)
おしなべて虚実のあはひに人は在り五感ひらきて風の影追ふ
- 選者賞(福士りか選)
露の臺があつて一杯飲むビール九十五歳の春が来ました

滝沢三枝子
山岸 ヨネ

【ジュニア部門(小学生の部)】

- 最優秀賞
じいちゃんの愛情込めたコシヒカリばくも参戦収穫部隊
- 最優秀賞
アジサイとバトンタッチのヒマワリがぐんぐんのびる夏の日の空
- 選者賞(佐藤通雅選)
みぎひだりだれを信じるスイカわりみぎを信じていぎ前になる
- 選者賞(福士りか選)
火花はね夏が半分すぎたこと知らせてくれるチャイムみたいだ

星野 泰心
橘 育夢

【ジュニア部門(中学生の部)】

- 選者賞(佐藤通雅選)
吹奏楽錆浮かぶホルン息入れて吾吹き抜けよ吾の音色よ
- 選者賞(福士りか選)
けんかしてこんなにひどく痛いのはけんかの相手が君だからだ

長坂 朝暉
山本 杏子

【ジュニア部門(高校生の部)】

- 最優秀賞
寝転べば草のにおいとベルセウス夜にこぼれた光尾をひく
- 選者賞(佐藤通雅選)
夜の街しずまりかえり無形とも思える闇に抱きかかえられ
- 選者賞(福士りか選)
折れたのは竹刀ではなく僕だった忘れられない「負けた」あのととき

高橋 佳奈
中田 昌伸
阿部 大機

第19回 短歌大会 応募状況

区分	応募作品数	応募者数
一般の部	883首	376人
ジュニアの部	9,194首	4,835人
(小学生)	2,200首	1,184人
(中学生)	4,034首	2,071人
(高校生)	2,960首	1,580人
総計	10,077首	5,211人

昨年の第十九回全国短歌大会は、選者に佐藤通雅先生(路上)、福士りか先生(コスモス短歌会)をお迎えして行いました。応募総数は一〇,〇七七首にのほり、一昨年には及びませんでした。一般の部と中学生の部では応募作品数が増加しました。特に中学校では、学校をあげて取り組んでいただき、七〇〇首以上の増加となりました。

平成二十五年十一月十七日には、

堀之内公民館を会場に、三百人を超える参加者をお迎えして、盛大な大会が開催されました。

平成二十六年度の大会は、第二十二回となります。応募は五月一日から受付を開始し、一般の部は七月三〇日、ジュニア部門は九月一〇日が締め切りの予定です。大勢の方から参加していただき、記念にのこる大会にしたいと考えています。ふるって参加していただきたいと思ひます。



【選者のことば】

豊かな自然、豊かなころ

福士りか

このたび第十九回宮柁二記念館全国短歌大会の選者を務めさせていただいたことは、私にとっても大きなできごとでした。

私は、かつて宮柁二の名前すら知らないままにコスモス短歌会に入会し、気ままに歌を作っていた若い日には、その作品を読むことはほとんどありませんでした。しかし、そのうち諸先輩の導きがあり、私もまた宮先生に列なる末にあることを意識するに至っています。しかし、今回の選を通じて地元新潟のみならず、いかに宮柁二という歌人を敬愛しているか、そして短歌という詩形を通じて自

らの生を慈しんでいるかを実感することができたように思います。

現代において短歌に親しむ人の年齢は次第に高くなっており、今回の一般の部の応募作品にしても百歳を越えた方、越えようとしている方の歌が少なくはありませんでした。そのような場合、ともすれば伴侶や友人との死別や病を題材にしがちですが、この大会においては愚痴や嘆きが全くといっていいほど見当たらず、生を肯定し楽しむといった趣が感じられました。もしかするとそれは、悲しみを包みこむような自然の存在によるものかもしれないと思います。

もちろん寄せてくださったのは新潟の方ばかりではありませんが、住む地域は異なっても、豊かな自然の営みが匂い立つような歌が多く、心ひかれました。そのことはジュニアの作品においても同様で、ことに小学生の歌には魚野川、破間川、佐梨川、また八海山などの名前が次々と現れ、そのたびに子どもたちのびやかな姿が心に浮かびました。ほかにも進路の歌、スポーツの歌、恋の歌など、ジュニア作品の瑞々しさに触れたことも幸いなことでした。心より感謝申し上げます。

福士りか (ふくしりか)

1961年、青森県生まれ。弘前学院聖愛高等学校に国語科教諭として勤務。1986年コスモス短歌会に入会し、1993年から結社内同人誌「棧橋」に参加。1997年より青森支部長、青森県歌人懇話会理事を務める。2000年、コスモス賞受賞。地元紙の新聞歌壇選のほか、10年に渡って古典エッセイを連載中。また文学同人誌「北奥気圏」同人として、創刊より地元を中心とした表現活動を行っている。2012年よりコスモス選者となる。現代歌人協会会員。『朱夏』（私家版）『フェザースノー』（紅書房）『り、の系譜』（津軽書房）の三冊の歌集がある。



【選者のことば】

それぞれの価値

佐藤通雅

私が宮柁二の作品にひかれたのは、学生時代でした。文庫本『宮柁二自選歌集』を手にしたのがきっかけです。なかでも『群鶏』や『山西省』には、暗くて重い内容にもかかわらずひかれ、このなかには大切ななにかがあると感じつけてきました。近年は集中して宮柁二論を書き、生誕百年の年に『宮柁二 柁二初期及び「群鶏」論』（柁書房）を刊行することができました。現在も続篇を書きつけています。

このような作業をしながら、柁二の生まれ育った風土や環境が、作家形成に大切な役目をはたしているように感じています。

一般の部は、人生経験の厚みも背景にした、すぐれた作品が続きつぎとあり、順位をつけるのに、大変苦労しました。

ジュニアの部は、一万首におよぶ、めまいがするほどの量。なかには宿題に出されて、四苦八苦しながらの作品も少なからずありました。もしかしたら、二度と短歌を作ることはないかもしれませんが、けれど若い日に、得手でも不

得手でもとにかく短歌を作ったという体験が、これから大切な記憶としてのこっていくかもしれない。そして、自分が小学生のとき、中学生のとき、また高校生をのとき、こういうことを考えていたのかと、ふり返るときがくるかもしれない。それぞれの節目には、それぞれの、かけがえのない大切さがあります。小さいから価値が低く、大きいから高いということはない、それぞれが大切な価値です。そういうことを考えながら、選考をさせていただきました。

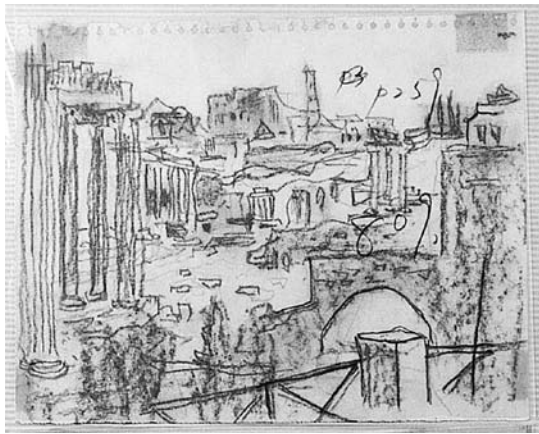
佐藤通雅 (さとう みちまさ)

1943年岩手県生まれ。1965年東北大学教育学部卒。卒業と同時に宮城県内の高校に勤務し、2003年定年退職。この間、宮城教育大、宮城県立保母専門学校、岩手大などで児童文学講座を担当。また宮沢賢治学会理事、仙台文化事業団理事、仙台文学館運営協議会委員なども務める。1966年文学思想個人編集誌「路上」を創刊、現在にいたる。現在「河北新報」歌壇の選者を担当する。

著書 歌集『薄明の谷』『水の涯』『強霜』（第27回詩歌文学館賞）その他。評論『宮沢賢治 東北砕石工場技師論』『宮柁二 柁二初期及び「群鶏」論』その他。



宮芳平画
「聖地巡礼」スケッチ画



宮柊二記念館収蔵資料紹介 No.40

宮芳平は宮柊二の叔父で、長野県諏訪地方で活躍をした画家です。敬虔なクリスチャンでもあった宮芳平が訪れた聖地の風景スケッチが、昭和42年から43年まで「聖地巡礼」として、コスモスに掲載されました。宮柊二記念館には、その原画が収蔵されています。

「宮芳平展 野の花として生くる。」
当館所蔵の資料も展示されます。



バールの歌姫

昨年八月から、画家・宮芳平の生誕一二〇年を記念して、「宮芳平展」が行われており、全国五ヶ所の美術館を巡回しています。芳平の初期の作品から晩年の「聖地巡礼」シリーズにいたるまで、生涯の制作の全貌が見渡せる貴重な機会となっています。この展示に、当記念館所蔵の芳平の油彩「バールの歌姫」が展示されています。また、四月から開催される新潟近代美術館では、コスモスに掲載された「聖地巡礼」のスケッチ画も展示される予定となっています。この機会に大勢の皆様からご覧いただきたいと思っています。

◎新潟県立近代美術館 開催

会期 平成二十六年四月二十六日～
六月一日

「友の会」からのお知らせ

宮柊二記念館では、会員を募集しています。年会費は、〇〇〇円です。詳しいことは、宮柊二記念館へお問合せください。

宮柊二記念館だより 第40号

発行 2014. 2. 28

問合せ 宮柊二記念館 (〒949-7413 新潟県魚沼市堀之内117-6) TEL・FAX 025-794-3800
メール miya-museum@city.uonuma.niigata.jp ホームページ <http://www.city.uonuma.niigata.jp/miyashuji>